



任長	掃合部
責任員	清組支
委員	京働京
行集	東労文
行集	東労文
発執	東労文

2008年05月15日
第68号

サーマルリサイクル
本格実施の年

総力で要求実現へ

真剣に将来の人材確保を

今年の4月で、清掃事業移管から丸8年、身分切替から丸2年が経ちました。事業移管から今日まで、文京区における清掃事業は東京都時代と何ら変わることなく円滑に運営されていきます。さらに、単にごみを収集するだけでなく、ごみ出しが困難な方を対象にした「高齢者等訪問収集」を行ったり、リサイクル社会の実現に向けて子供達を対象にした「エコ教室」を行ったりして、区における清掃事業の充実を図ってきました。10月からは埋立処分場の延命を図ることを目的とし、これまでの分別基準を大

きく変えることになるサーマルリサイクルが本格実施になります。時代の変化とともに、よりきめ細かな清掃事業が求められてきています。清掃事業は区の固有事務です。今、自治体に効率的な事業運営が求められていますが、住民にとつて最も身近な自治体である区は住民の生活環境を守り、資源循環型社会を目指し、これからも責任ある清掃事業を行うべきです。

しかし、残念ながら現状は、「効率化」の名の下に様々な合理化攻撃を掛

け、身分切替以降は、より激しさを増しています。文京区においても組合が組織を挙げての闘いを展開しその都度一定の押し戻しをしてきました

交流異動から1年

加藤浩(本所↓支所)

本所から支所に異動して、早1年が経ちました。お陰さまで何とか元気にやっています。これからもよろしくお願ひします。

菅野秀之(支所↓本所)

菅野です。毎日楽しくやっております。

当面の予定

- ◎反核平和の日のリレー
6月2日(月) 15時10分
文京清掃事務所↓小石川郵便局
- ◎本部組織集会(2泊3日)
6月7日(土)～9日(月)
箱根路開雲
- ◎第二地連一泊学習会(1泊2日)
7月5日(土)～6日(日)
春日部エミナース

が「効率化」は進められ、この8年間で大幅に職員数が減らされてきました。

今後の清掃事業において文京区が責任あるきめ細かな事業展開をするには、もうこれ以上の合理化は許されません。必要な人材の確保、将来の人

材の確保を真剣に考えるべきです。

新しい年度は始まったばかりですがこれから始まる「21年度予算要求闘争」「新年度作業計画策定闘争」等において支部の総力をあげて要求実現に向けて、今年度も一丸となって頑張りましょう。委員長・桐田達也

ます。

高橋清孝(本所↓支所)

支所に異動し、早くも1年。支所の水が自分から合ったのかどうか分からないが、どうやらメタボリック体型になってしまったようだ。やれやれ。

田高学(支所↓本所)

人事交流で1年間も早や過ぎ、新たな職場で未だに新鮮な職風を実感しています。支所で18年間お世話になったことを礎に、誇りを持つていきたいと思ひます。

保坂純一(支所↓本所)

環境の変化に戸惑いを感じていた1年前に比べ、今では楽しく仕事をさせていただけの仲間感謝しています。



3月初旬の朝6時。風が冷たく、寒くて暗い。私の所属する草野球チーム「パンパス」の開幕戦の朝である。ちなみに某企業とは無関係である。▼20代から50代の25人の野球おバカが集まり、「中野早朝野球リーグ」での試合をメインに、年間30数試合、各々の役割をわきまえ、おバカぶりを発揮する。コンセプトは「楽しんでなるべく勝つ！そして呑む！」である。▼ライバルチームの監督曰く「圧倒的な強さは感じないが、終わってみれば負かされている」。そんなチームらしい(?)。うちは、しばしば圧倒的に負かされるが:(笑)。▼オムツの取れない赤ん坊を子に持つお父さんが呑みながら「野球チーム作っちゃおう?」で結成したパンパス! 愛すべき25人の仲間とともに迎えた16年目の春である。【S】

火

飯塚勝

メーデー参加は2回目ですが、代々木公園の中央集会には初参加となりました。



横断幕を掲げ行進する東京清掃労組(4月26日、明治/代々木公園)

朝の集合時からメーデー終了まで、肌寒く薄曇りの中で行われていて、暗く寂しい気持ちにさせる天気であり、何となく今の世の中を象徴するような天気のお配を感じながら、デモ行進に参加しました。

そして、中央集会では、多数団体組合員の参加や、与野党党首級の方々の参加もあつて、盛り上がっていたように思えました。

ました。

しかし、集まることに意義あり、レクリエーション的な印象が強く、労働者のお祭り色を強く感じさせるメーデーだったように思えました。

スローガンの一部に「格差社会をなくそう」というものがありまし

荒木政敏

風薫る5月、まさに五月晴れの快晴の中、5月1日に日比谷野外音楽堂で行われた労働者の祭典「日比谷メーデー」に参加してきました。厳しい日差しの中、日焼け止め

石井孝昌

立夏(5月5日)を迎えようとしている皐月の初め、真に五月晴れというにふさわしい朝に、日比谷公園のメーデーに参加させていただきました。労働という生活基盤の担い手の一人として労働者の祭典の中で、昨今、「格差」という言葉が世に流れ始めて、「格差」とは何だろうと改め

た。参加、不参加問わずにすべての労働者が、こういうスローガンについて、少しでも話をしたり考えることを通して、さまざまな問題意識を持つことが大切であり、そのことによって新たな一歩が始まるのではないかと考えます。

クリームを塗って集会、デモ行進に臨み、シユプレヒコールの掛け声に合わせてこぶしを突き上げ、元気良く銀座の街並みの中を練り歩きました。暑さで多少疲れましたが、とても良い経験ができたと思います。

と思う次第でした。ユニ(uni)、一つという

竹内健明

奇しくも暫定税率再導入の5月1日、初夏をも思わせる天候の中、格差是正をテーマに日比谷メーデーが開催され、文京支部17名が参加した。日比谷野外音楽堂には、東京清掃をはじめ、多くの仲間が結集した。



元気良くデモ行進する文京の仲間(5月1日、日比谷公園)

言葉、それはユニオンであり、ユニホームであり、その言葉の意味を再確認できる良い体験をさせていただきました。

日比谷メーデーの宣言には、企業の経常利益が増えているのに労働者の賃金は下がっていること

や、年収200万円以下の人が1000万人を超えていることなどが盛り込まれ、08年春闘を通じて貧困を無くすことを最重点課題としていくこととした。

今回参加することにより、普段考えていた、将来への不安、貧困の格差などがより明確になったように感じた。また、今後より一層の団結で、生活と権利を守らなければ、と感じた。

最後に非常に残念なこと、一部に、一部の職員が、公園内禁煙とされている音楽堂内で、喫煙をしているのを目に付いた。自分たちの意見を主張する場で、最低限の決まりごとが守れないのはいかなるものかと感じた。